

平成 8 年度畑作関係

除草剤試験成績概要

財団法人 日本植物調節剤研究協会 技術部

平成 8 年度畑作関係除草剤の試験成績中央検討会を平成 8 年 12 月 4 日、植調会館会議室において開催した。

このうち、適用性試験については、慎重に試験成績を検討し、実用化についての判定を行った。

本年度供試された畑作関係除草剤は、作用性試験 10 剤、適用性試験 30 剤であった。

その結果は、次表の通りである。

平成 8 年度 畑作除草剤試験中央判定および使用基準

薬 剤 名	作物名	中央判定	使 用 基 準						継 の 内 容	
			対象雑草	処理方法	処理時期	使用量 製品/a	適用土壌	適用地域		使用上の注意
1. AC-263 液 ・イマザモックス……0.8%	大 豆	「実・継」	一年生 広葉雑草	土 壌	出芽直前～出芽始期	20～30m/ 散布水量10 l	全土壌 (砂土を除く)	寒 地		・ 寒地での処理時期拡大。
	小 豆	「実・継」 (前年通り)	一年生 広葉雑草	土 壌	出芽直前～出芽始期	20～30m/ 散布水量10 l	全土壌 (砂土を除く)	寒 地		・ 寒地での処理時期拡大。
	菜 豆 (金時類)	「実・継」	一年生 広葉雑草	土 壌	出芽直前	20～30m/ 散布水量10 l	全土壌 (砂土を除く)	寒 地		・ 寒地での処理時期拡大。
2. CG-123 フロアブル ・メトラクロール……25% ・アトラジン……15%	とうもろこし	「実」	一年生 雑草全般	土 壌	播種後、 雑草発生前	20～40m/ 散布水量10 l	全土壌 (砂土を除く)	寒 地 寒冷地		
							火山灰土	温暖地		

薬 剤 名	作物名	中央 判定	使 用 基 準						使用上の注意	継の内容
			対象雑 草	処理方 法	処理時 期	使用量 製品/a	適用土 壌	適用地 域		
2. CG-123 フロアブル (つづき)						10～ 30m/ 散布水 量10 l		暖 地		
					茎 葉 とうも ろこし 2～4 葉期	20～ 30m/ 散布水 量10 l	全土壌 (砂土 を除く)	寒 地		
						30～ 40m/ 散布水 量10 l		寒冷地 以西		
			イチビ	イチビ 2～5 葉期	40～ 60m/ 散布水 量10 l					
3. CG-205 顆粒水和 ・プロスルフロ ン……70%	とうも ろこし (加工 用)	「実・継」	一年生 広葉雑 草	茎 葉	広葉雑 草 1～ 4 葉期, とうも ろこし 1～4 葉期	0.3～ 0.4 g	全土壌 (砂土 を除く)	寒 地	1) 広葉雑草優占圃 場で使用する. 2) 体系処理: イネ 科雑草対象の既 登録除草剤を使 用する.	・ 飼料用品種に ついて(寒地). ・ 地域拡大.
4. DCMU フロアブル ・ DCMU ……50%	さとう きび (春植, 夏植)	「実」	一年生 雑草全 般	土 壌	植付覆 土後ま たは培 土後, 雑草発 生前	16～ 20m/ 散布水 量10 l	全土壌 (砂土 を除く)	暖 地		
5. Hoe-866 液 ・ グルホシネー ト……18.5%	さとう きび	「継」								・ 効果, 害害の 再検討.
6. Hoe-866 -3H 水和 ・ グルホシネー ト……10% ・ DCMU ……15%	ばれい しょ	「実・継」	一年生 雑草全 般	茎 葉	植付後 萌芽前, 雑草生 育期	15～ 20m/ 散布水 量10 l	全土壌 (砂土 を除く)	寒 地		・ 地域拡大.

薬 剤 名	作物名	中央判定	使 用 基 準						使用上の注意	継の内容
			対象雑草	処理方法	処理時期	使用量 製品/a	適用土壌	適用地域		
7. NC-331① 水和 ・ハロスルフロ ンメチル ………5%	とうも ろこし (飼料 用)	「実・継」	イチビ	茎 葉	イチビ 2～5 葉期 (とう もろこ し3～ 5葉期)	5～ 7.5 g 散布水 量10 l 5～ 10 g 散布水 量10 l	全土壌 (砂土 を除く)	寒冷地、 温暖地 以西		・ 薬害の再検討 (寒冷地). ・ 地域拡大.
	さとう きび (春植、 夏植)	「実・継」	一年生 広葉雑 草 ハマス ゲ	茎 葉	さとう きび生 育初期、 広葉雑 草3～ 5葉期、 ハマス ゲ3～ 5葉期	15～ 20 g 散布水 量10 l	全土壌 (砂土 を除く)	暖 地		・ 夏植における 一年生広葉雑 草への効果の 確認.
8. NC-360 フロアブル ・キザロホップ エチル…7%	大 豆	「実」	一年生 イネ科 雑草 (但し、 スズメ ノカタ ビラは 除く)	茎 葉	イネ科 雑草3 ～6葉 期	20～ 25m/ 散布水 量10 l	全土壌	寒 地	1) 体系処理: 広葉 雑草対象の既登 録土壌処理剤を 使用する.	
	小 豆	「実」	一年生 イネ科 雑草 (但し、 スズメ ノカタ ビラは 除く)	茎 葉	イネ科 雑草3 ～6葉 期	20～ 25m/ 散布水 量10 l	全土壌	寒 地	1) 体系処理: 広葉 雑草対象の既登 録土壌処理剤を 使用する.	
	菜 豆	「実」	一年生 イネ科 雑草 (但し、 スズメ ノカタ ビラは 除く)	茎 葉	イネ科 雑草3 ～6葉 期	20～ 25m/ 散布水 量10 l	全土壌	寒 地	1) 体系処理: 広葉 雑草対象の既登 録土壌処理剤を 使用する.	

薬 剤 名	作物名	中央判定	使 用 基 準						使用上の注意	継の内容
			対象雑草	処理方法	処理時期	使用量 製品/a	適用土壌	適用地域		
8. NC-360 フロアブル (つづき)	てんさい	「実」	一年生 イネ科 雑草 (但し、 スズメ ノカタ ビラは 除く)	茎 葉	イネ科 雑草 3 ～6 葉 期	20～ 25m/ 散布水 量10 l	全土壌	寒 地	1) 体系処理：広葉 雑草対象の既登 録土壌処理剤を 使用する。	
9. NP-61 乳 ・カロキシジム ………10%	大 豆	「実・継」	一年生 イネ科 雑草	茎 葉	イネ科 雑草 3 ～5 葉	7.5～ 10m/ 散布水 量10 l	全土壌	寒冷地 以西	1) イネ科雑草優占 圃場で使用する。 2) 体系処理：広葉 雑草対象の既登 録薬剤を使用す る。	・ 効果の確認。 ・ 地域拡大。
	小 豆	「継」								・ 効果、薬害の 再検討。
	菜 豆	「継」								・ 効果、薬害の 再検討。
	てんさい	「継」								・ 効果、薬害の 再検討。
10. RYH-104 顆粒水和 ・イソキサフル トール…75%	とうも ろこし	「実・継」	一年生 雑草全 般	土 壌	播種後、 雑草発 生前	1.5～ 2.5 g 散布水 量10 l	全土壌 (砂土 を除く)	温暖地 西部、 暖地		・ 地域拡大。
11. S-28U 粒 ・ブタミホス ………3%	ばれい しょ	「継」								・ 効果、薬害の 再検討。
12. S-3263 乳 ・クレトジム ………12%	かんし ょ	「継」								・ 効果、薬害の 再検討。
13. S-604 乳 ・クレトジム ………23%	菜 豆	「実・継」	一年生 イネ科 雑草	茎 葉	イネ科 雑草 3 ～5 葉 期	3.5～ 5m/ 散布水 量10 l	全土壌	寒 地	1) 体系処理：広葉 雑草対象の既登 録土壌処理剤を 使用する。	・ スズメノカタ ビラへの効果 の確認。
14. SB-536 乳 ・ジメテナミド ………14% ・リニュロン ………12%	大 豆	「実・継」	一年生 雑草全 般	土 壌	播種後、 雑草発 生前	50～ 60m/ 散布水 量10 l	全土壌 (砂土 を除く)	寒冷地 温暖地		・ 低薬量での効 果の確認。 ・ 地域拡大。

薬 剤 名	作物名	中央判定	使 用 基 準						継の内容
			対象雑草	処理方法	処理時期	使用量 製品/a	適用土壌	適用地域	
14. SB-536 乳 (つづき)						40～ 60m/ 散布水 量10 l		暖 地	
	とうも ろこし	「実・継」	一年生 雑草全 般	土 壌	播種後、 雑草発 生前	50～ 60m/ 散布水 量10 l	全土壌 (砂土 を除く)	寒冷地 温暖地	- 低薬量での効果の確認。 - 地域拡大。
						40～ 60m/ 散布水 量10 l		暖 地	
15. SSH-130 粉粒 ・トリフルラリ ン……1.2% ・ペンディメタ リン…1.2%	ばれい しょ	「継」							効果、薬害の再検討。
16. WOC-01 液 ・グリホサート イソプロピル アミン塩 ………41%	かんし ょ	「継」							効果、薬害の再検討。
17. フェンメディ ファム 乳 ・フェンメディ ファム…13%	てんさ い	「実」	一年生 広葉雑 草	茎 葉	中耕除 草後、 雑草発 生揃	50～ 60m/ 散布水 量 5～ 8 l	全土壌 (砂土 を除く)	寒 地	1) 前処理後発生した雑草を対象とする。
18. プロピザミド 水和 ・プロピザミド ………50%	小 豆	「継」							効果、薬害の再検討。
19. レナシル・ PAC 水和 ・レナシル ………40% ・PAC…30%	てんさ い	「実」	一年生 雑草全 般	土 壌	中耕除 草後、 雑草発 生始期	20～ 30 g 散布水 量10 l	全土壌 (砂土 を除く)	寒 地	1) 生育の進んだイネ科雑草に劣る。 2) 前処理後発生した雑草を対象とする。